

キ. 標準数量表 (矢板あり)

(1 箇所当り)

工種	形質寸法	単位	数量			
			幹線道路	一般道路	歩道	砂利道
舗装切断工	アスファルト	m	3.75			—
舗装版直接掘削・積込工		m ²	1.32			—
管路掘削工		m ³	2.05	2.07	2.14	2.18
管路埋戻工	改良土	m ³	1.39	1.81	2.07	2.18
残土処分工		m ³	1.39	1.81	2.01	2.18
舗装残滓等処分工	アスファルト	m ³	0.13	0.11	0.04	—
舗装残滓等処分工	路盤廃材	m ³	0.66	0.26	0.13	—
矢板工 (設置・撤去)	掘削幅 B ≤ 1.3	m	3.75			
一次本復旧工		m ²	1.32			—
割T字管撤去工 (材工共)		箇所	1			
ポリエチレンスリーブ取付工	防食テープ含む	m	1.20			
ポリエチレンスリーブ	材料費	m	1.20			

ク. 割T字管撤去工 (材工共) 歩掛表

(1 箇所当り)

口径 (mm)	労務費			材料費		
	配管工 (人)	普通作業員 (人)	諸雑費	割継輪 (個)	亜鉛合金ナット (個)	
					M16	M20
75	0.050	0.050	労務費 の1%	1	6	—
100				1	6	—
150	0.060	0.060		1	6	—
200	0.105	0.105		1	—	6
300	0.135	0.135		1	—	12
400	0.200	0.200		1	—	12

(19) フランジ栓止工【接合替】

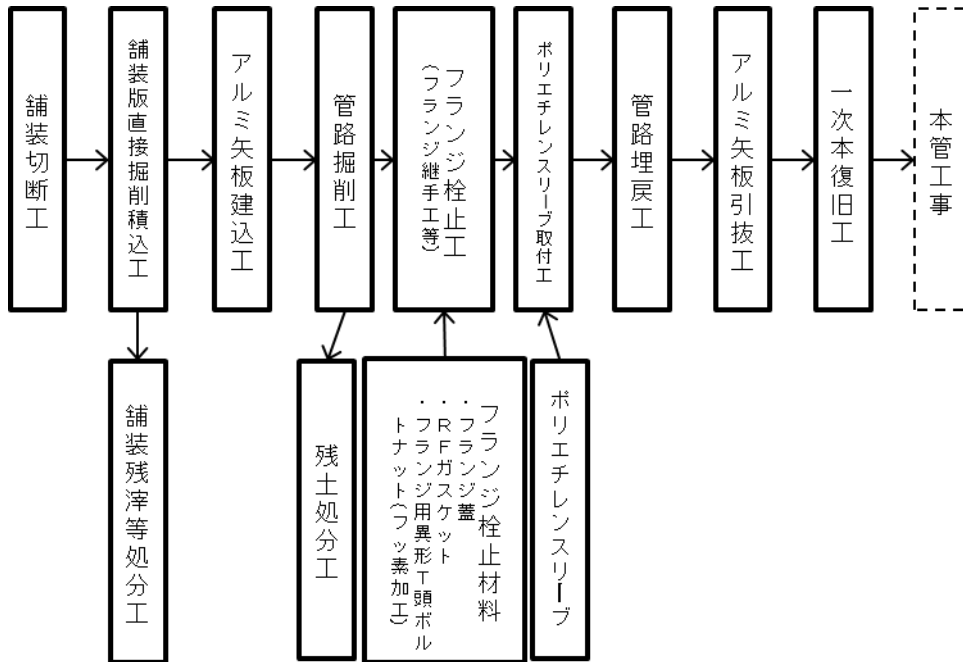
ア. フランジ栓止工【接合替】は、既設の割T字管 (フランジ型/φ50分岐) の分岐側におけるフランジ継手を離脱させ、フランジ蓋を設置する工事に適用する。

イ. 矢板工の計上が必要となる場合は、アルミ矢板、矢板長 2.0m、支保工 1 段を標準とする。

ウ. 標準材料として、フランジ蓋、RF ガasket、フランジ用異形T頭ボルトナット (M16×75、フッ素加工) を含むものとする。

エ. 埋戻工は、改良土使用を標準とする。

オ. 施工フローは下記を標準とする。



(注)・本包括単価は、実線部分の施工内容に対応している。

・その施工に必要な全ての機械・労務について含んでいる。

カ. 標準数量表 (矢板なし)

(1 箇所当り)

工種	形質寸法	単位	数量			
			幹線道路	一般道路	歩道	砂利道
舗装切断工	アスファルト	m	2.05			—
舗装版直接掘削・積込工		m ²	0.42			—
管路掘削工		m ³	0.49	0.37	0.39	0.41
管路埋戻工	改良土	m ³	0.28	0.29	0.38	0.41
残土処分工		m ³	0.28	0.30	0.36	0.41
舗装残滓等処分工	アスファルト	m ³	0.04	0.03	0.01	—
舗装残滓等処分工	路盤廃材	m ³	0.21	0.08	0.04	—
一次本復旧工		m ²	0.42			—
フランジ栓止工 (材工共)	φ 50	箇所	1			
ポリエチレンスリーブ取付工	防食テープ含む	m	0.70			
ポリエチレンスリーブ	材料費	m	0.70			

キ. 標準数量表 (矢板あり)

(1 箇所当り)

工種	形質寸法	単位	数量			
			幹線道路	一般道路	歩道	砂利道
舗装切断工	アスファルト	m	2.05			—
舗装版直接掘削・積込工		m ²	0.51			—
管路掘削工		m ³	0.71	0.72	0.75	0.77
管路埋戻工	改良土	m ³	0.46	0.62	0.73	0.77
残土処分工		m ³	0.46	0.63	0.70	0.77
舗装残滓等処分工	アスファルト	m ³	0.05	0.04	0.02	—
舗装残滓等処分工	路盤廃材	m ³	0.26	0.10	0.05	—
矢板工 (設置・撤去)	掘削幅 B ≤ 1.3	m	2.05			
一次本復旧工		m ²	0.51			—
フランジ栓止工 (材工共)	φ50	箇所	1			
ポリエチレンスリーブ取付工	防食テープ含む	m	0.85			
ポリエチレンスリーブ	材料費	m	0.85			

(20) パイプエンド設置工 (材工共) 【接合替】

ア. パイプエンド設置工 (材工共) 【接合替】は、既設給水管へ接続時にポリエチレン管 (一次側) にパイプエンドを設置する工事に適用する。

イ. 管継手工については、「水道事業実務必携」ポリエチレン管布設歩掛表によるものとする。

ウ. 標準数量表

(1 箇所当り)

工種/資材名称	単位	数量		
		φ25	φ40	φ50
ポリエチレン管継手工【接合替】	口	1	1	1
ポリエチレン管金属継手 パイプエンド	個	1	1	1

(21) 仮管分岐工【～φ50】/仮管分岐設置撤去工【φ75～】

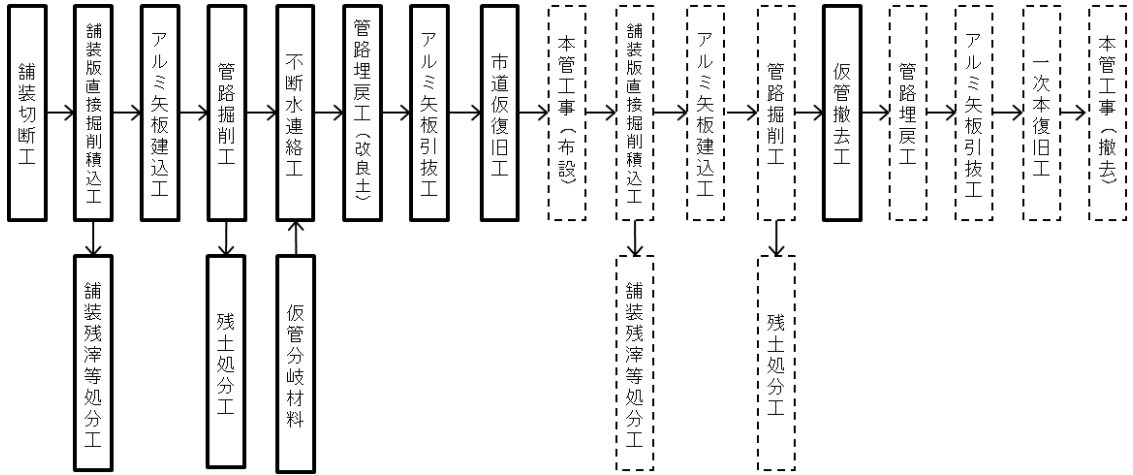
ア. 仮管分岐工【～φ50】/仮管分岐設置撤去工【φ75～】は、既設配水管より仮管用の分岐を設置し、本体工事の完成後に当該分岐を撤去する工事に適用する。

イ. 仮管分岐材料のうち、鋳鉄管材料、ボルトナット、ソフトシール仕切弁、弁室材料については、3回償却とする。また、当該部分の撤去については、仮設配管の再使用目的撤去を標準とする。

ウ. 矢板工の計上が必要となる場合は、アルミ矢板、矢板長 2.0m、支保工 1 段を標準とする。

エ. 埋戻工は、改良土を使用するものとする。

- オ. 不断水連絡工において、防食コアは計上しないものとする。
- カ. 分岐口径がφ75以上については、GF加工を行うこととする。
- キ. 施工フローは、下記を標準とする。



- (注)・本包括単価は、実線部分の施工内容に対応している。
- ・その施工に必要な全ての機械・労務について含んでいる。

ク. 標準掘削寸法表

配水管口径 (mm)	掘削幅 (m)	掘削延長 (m)		掘削深 (m)	
		～φ50分岐	φ75以上分岐	矢板なし	矢板あり
75	1.10	1.10	1.30	1.24	1.64
100	1.10	1.10	1.30	1.27	1.67
125	1.10	1.10	1.30	1.29	1.69
150	1.10	1.10	1.30	1.32	1.72
200	1.10	1.10	1.30	1.37	1.77
300	1.10	1.10	1.30	1.47	1.87

ケ. 標準数量表

(1 箇所当り)

工種名称	単位	数量	
		φ 40・φ 50	φ 75以上
舗装切断工	m	(掘削幅+掘削延長)×2	
舗装版直接掘削積込工	m ²	掘削幅×掘削延長	
管路掘削工	m ³	掘削幅×掘削延長×(掘削深 ^{※1} －既設舗装版厚)	
管路埋戻工	m ³	掘削幅×掘削延長×(掘削深 ^{※1} －仮復旧厚)	
残土処分工	m ³	掘削幅×掘削延長×(掘削深 ^{※1} －既設舗装版厚)	
舗装残滓等処分工 (As)	m ³	掘削幅×掘削延長×既設舗装版厚	
舗装残滓等処分工 (路盤廃材)	m ³	掘削幅×掘削延長×既設路盤厚	
市道仮復旧工	m ²	掘削幅×掘削延長	
矢板工 (設置・撤去) ^{※2 ※4}	m	(掘削幅+掘削延長)×2	
仮管分岐材料	式	1	
不断水連絡工 (材工共)	箇所	1	
弁室類築造工 (設置・撤去)	箇所	—	1
仮管撤去工 (鑄鉄管)	m	—	※3

※1 掘削深は土被に管外径を加算したものとする。

※2 矢板工は掘削深が1.50mを超える場合に計上する。

※3 φ75 : 0.36、φ100 : 0.37、φ150 : 0.40とする。

※4 矢板工を計上する場合の支保工は(掘削幅 B ≤ 1.3)とする。

(注) 各工種の計算結果は、小数第2位までとし第3位四捨五入とする。

コ. 標準材料表 (φ40分岐・φ50分岐)

(1 箇所当り)

資材名称	形式寸法	単位	数量	
			φ 40	φ 50
ビニル管用ユニオンナット		個	2	2
S ベンド	HIVP	個	1	1
ソフトシール止水栓		個	1	1
止水栓用伸縮継手	40	個	1	—
ビニル管用伸縮継手	50	個	—	1
ユニオンソケット	HIVP	個	2	2
止水栓ボックス	150	個	1	1
止水栓ボックス (継足用)	150	個	1	1
残留塩素検査	DPD 試薬	箇所	1	1

サ. 標準材料表 (φ75分岐・φ100分岐・φ150分岐)

(1 箇所当り)

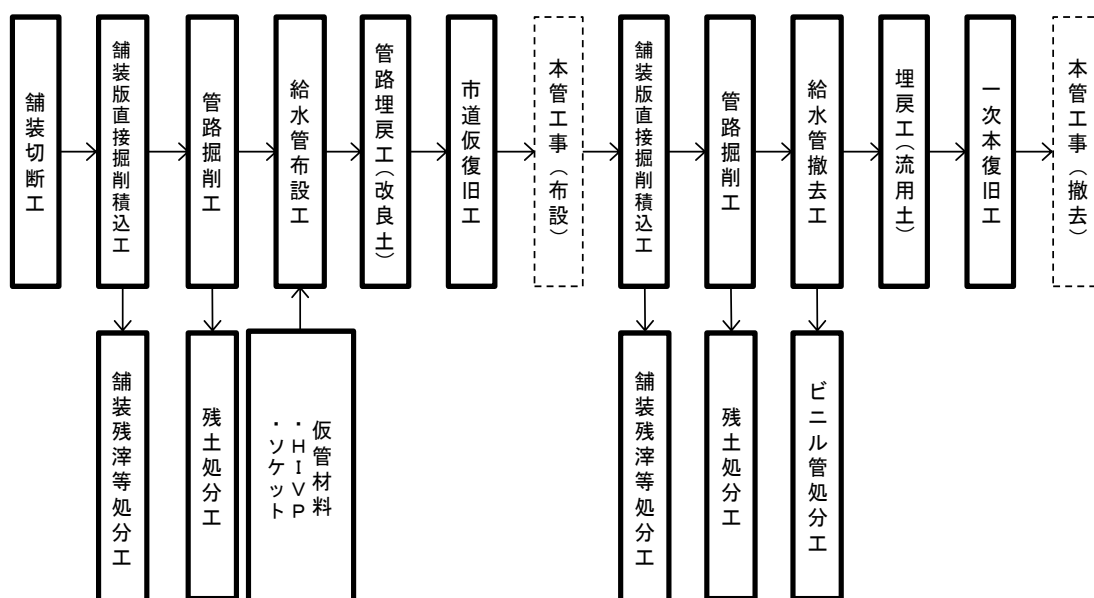
資材名称	単位	数量			備考
		φ75	φ100	φ150	
ソフトシール仕切弁 (浅層埋設用)	個	1			3回償却
DK短管1号 GF形	個	1			3回償却
VCソケット	個	1			
K (A) 押輪	個	1			3回償却
K ゴム輪	個	1			
GF ガスケット	個	2			
T頭ボルトナット (K・KF形用)	本	4	4	6	3回償却
フランジ用異形T頭ボルトナット (仮管用)	本	8	8	12	3回償却
制水弁鉄蓋	個	1			3回償却
調整リング50mm	個	2			3回償却
調整リング100mm	個	1			3回償却
レジンコンクリート上下部壁 (CA)	個	1			3回償却
レジンコンクリート底版 (P)	個	1			3回償却
残留塩素検査 (DPD試薬)	箇所	1			

(22) 仮管布設撤去工

ア. 仮管布設撤去工は、仮管を布設し、本体工事完成後に当該仮管を撤去する工事に適用する。

イ. 埋戻工は、設置時に改良土を使用し、撤去時は当該改良土を流用するものとする。

ウ. 施工フローは、下記を標準とする。



(注) ・本包括単価は、実線部分の施工内容に対応している。

・その施工に必要な全ての機械・労務について含んでいる。

エ. 標準数量表 (車道部)

(10m当り)

工種名称	単位	数量					
		φ 25	φ 40	φ 50	φ 75	φ 100	φ 150
舗装切断工	m	20.00					
舗装版直接掘削積込工	m ²	11.00					
管路掘削工	m ³	2.59	2.59	2.59	3.29	3.47	3.84
管路埋戻工 (改良土)	m ³	0.28	0.28	0.28	0.70	0.80	1.02
管路埋戻工 (発生土)	m ³	0.11	0.11	0.11	0.39	0.47	0.67
残土処分工	m ³	0.28	0.28	0.28	0.70	0.80	1.02
舗装残滓等処分工 (As)	m ³	0.72					
舗装残滓等処分工 (路盤廃材)	m ³	2.20					
市道仮復旧工	m ²	5.50					
一次本復旧工	m ²	5.50					
給水管布設工	m	10.00					
給水管撤去工	m	10.00					
給水管材料	m	10.00					

オ. 標準数量表 (歩道部)

(10m当り)

工種名称	単位	数量					
		φ 25	φ 40	φ 50	φ 75	φ 100	φ 150
舗装切断工	m	20.00					
舗装版直接掘削積込工	m ²	11.00					
管路掘削工	m ³	2.97	2.97	2.97	3.67	3.86	4.22
管路埋戻工 (改良土)	m ³	1.49	1.49	1.49	1.91	2.01	2.18
管路埋戻工 (発生土)	m ³	1.21	1.21	1.21	1.48	1.57	1.76
残土処分工	m ³	1.21	1.21	1.21	1.64	1.74	1.91
舗装残滓等処分工 (As)	m ³	0.33					
舗装残滓等処分工 (路盤廃材)	m ³	0.55					
市道仮復旧工	m ²	5.50					
一次本復旧工	m ²	5.50					
給水管布設工	m	10.00					
給水管撤去工	m	10.00					
給水管材料	m	10.00					

カ. 給水管布設工 (ビニル管)

(10m当り)

工種名称	形質寸法	単位	数量
硬質塩化ビニル管 据付工		m	10.00
硬質塩化ビニル管 TS継手工		箇所	20.00
硬質塩化ビニル管 切断工		口	10.00

※TS継手工2箇所につき、1口計上する。

キ. 給水管撤去工（ビニル管）

（10m当り）

工種名称	形質寸法	単位	数量
硬質塩化ビニル管布設 据付工		m	6.00
硬質塩化ビニル管切断（既設管撤去）		口	1.67
ビニル管等処分工（運搬費含む）	ビニル管	m	10.00

（注）切断数量は、6m当り1箇所を標準とする。

ク. 標準材料表

（1m当り）

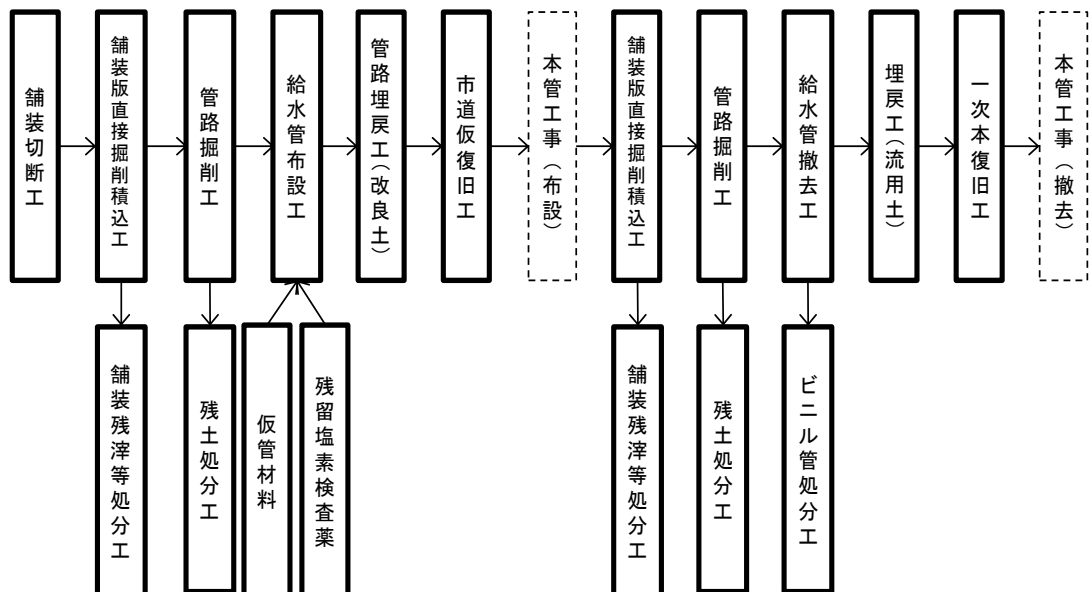
ビニル管	耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管：1m HIビニルソケット：1個
------	-----------------------------------

（23）仮接合替工

ア. 仮接合替工は、仮管布設撤去工により設置した仮管から給水管を分岐させ、既設の給水管に接続する工事に適用する。

イ. 埋戻工は、設置時に改良土を使用し、撤去時は当該改良土を流用するものとする。

ウ. 施工フローは、下記を標準とする。



（注）・本包括単価は、実線部分の施工内容に対応している。

・その施工に必要な全ての機械・労務について含んでいる。

エ. 標準数量表 (仮接合替工)

(1 箇所当り)

工種名称	形質寸法	単位	数量	
			車道	歩道
舗装切断工	アスファルト	m	1.65	
舗装版直接掘削積込工		m ²	0.61	
管路掘削工		m ³	0.14	0.16
管路埋戻工	改良土	m ³	0.02	0.08
管路埋戻工	発生土	m ³	0.01	0.07
残土処分工		m ³	0.02	0.07
舗装残滓等処分工	アスファルト	m ³	0.04	0.02
舗装残滓等処分工	路盤廃材	m ³	0.12	0.03
市道仮復旧工		m ²	0.30	
一次本復旧工		m ²	0.30	
給水管布設工	材工共	箇所	1	
給水管撤去工		箇所	1	
ビニル管処分工		m	0.55	
残留塩素検査	DPD試薬	箇所	1	

オ. 標準数量表 (給水管布設工)

(1 箇所当り)

工種名称	形質寸法	単位	数量
硬質塩化ビニル管 据付工	φ 25	m	0.55
硬質塩化ビニル管 T S継手工	φ 40	口	2
硬質塩化ビニル管 T S継手工	φ 25	口	5
硬質塩化ビニル管 切断工	φ 25	口	2
耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管	φ 25 材料費	m	0.55
H I エルボ	φ 25 材料費	個	2
H I チーズ	φ 40×25 材料費	個	1
ビニル管用修繕金具	φ 25 材料費	個	1

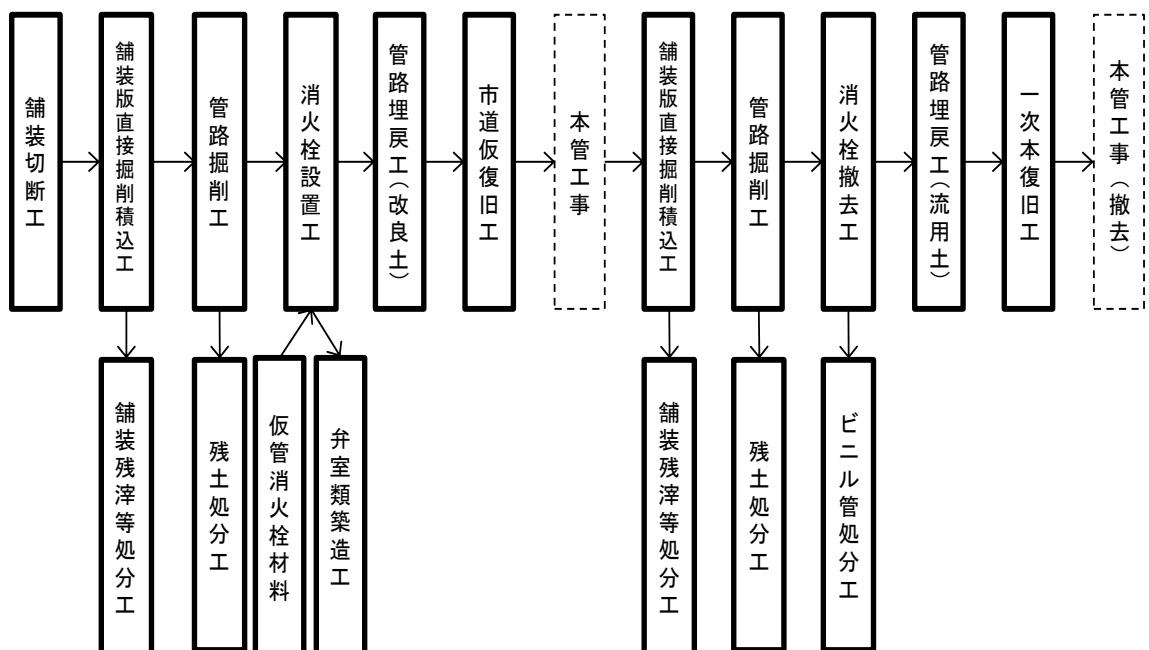
カ. 標準数量表 (給水管撤去工)

(1 箇所当り)

工種名称	形質寸法	単位	数量
硬質塩化ビニル管布設 据付工	φ 25	m	0.33
硬質塩化ビニル管切断 (既設管撤去)	φ 25	口	1

(24) 仮管消火栓設置撤去工

- ア. 仮管消火栓設置撤去工は、仮管部に仮消火栓を設置し、本体工事完成後に当該仮消火栓を撤去する工事に適用する。
- イ. 仮管消火栓材料のうち、鋳鉄管材料、ボルトナット、消火栓、弁室材料については、3回償却とする。また、当該部分の撤去については、仮設配管の再使用目的撤去を標準とする。
- ウ. 仮消火栓の鉄蓋及び弁室については、それぞれ円形鉄蓋、レジンコンクリートブロックを標準とする。
- エ. 埋戻工は、設置時に改良土を使用し、撤去時は当該改良土を流用するものとする。
- オ. 施工フローは、下記を標準とする。



(注) ・本包括単価は、実線部分の施工内容に対応している。
 ・その施工に必要な全ての機械・労務について含んでいる。

カ. 標準数量表

(1 箇所当り)

工種名称	形質寸法	単位	数量	
			車道	歩道
舗装切断工	アスファルト	m	3.32	
舗装版直接掘削積込工		m ²	1.83	
管路掘削工		m ³	1.21	1.27
管路埋戻工	改良土	m ³	0.50	0.70
管路埋戻工	発生土	m ³	0.34	0.52
残土処分工		m ³	0.50	0.66
舗装残滓等処分工	アスファルト	m ³	0.12	0.05
舗装残滓等処分工	路盤廃材	m ³	0.37	0.09
市道仮復旧工		m ²	0.91	
弁室類築造工	設置・撤去	箇所	1	
仮管撤去工（铸铁管）	再使用あり	m	※1	
一次本復旧工		m ²	0.91	
K形継手工		箇所	2	
K S形継手工		箇所	1	
消火栓設置工	設置・撤去	箇所	1	
仮ビニル管布設工		m	1.00	
铸铁管据付工		m	※1	
給水管撤去工	ビニル管	m	1.00	
仮管消火栓材料		箇所	1	

※1 $\phi 75 : 0.63$ 、 $\phi 100 : 0.66$ 、 $\phi 150 : 0.69$ とする。

(注) ・仮ビニル管布設工については、「本章 第1.3 (22) カ. 給水管布設工（ビニル管）」による。

・給水管撤去工については、「本章 第1.3 (22) キ. 給水管撤去工（ビニル管）」による。

キ. 標準材料表

(1箇所当り)

資材名称	単位	数量			備考
		φ75	φ100	φ150	
消火栓(単口)	個	1			3回償却
T頭ボルトナットフランジ用異形(仮管用)	本	4			3回償却
GFガasket	個	1			
円形消火栓鉄蓋(単口)	個	1			3回償却
円形鉄蓋用ボルトナット	組	1			3回償却
調整リング	個	2			3回償却
レジンコンクリート上部壁(A)	個	1			3回償却
レジンコンクリート下部壁(C)	個	1			3回償却
レジンコンクリート底版(P)	個	1			3回償却
VCソケット	個	2	2	2	
耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管	m	1	1	1	
DK継輪	個	1	1	1	3回償却
DK浅層埋設形フランジ付T字管 GF形	個	1	1	1	3回償却
T頭ボルトナット(K・KF形用) ^{※1}	本	12	12	18	3回償却
Kゴム輪	個	3	3	3	
K(A)押輪	個	2	2	2	3回償却
K離脱防止押輪	個	1	1	1	3回償却

※1 φ75:M16×85、φ100・φ150:M20×100とする。

(注)・弁室類築造使用材料については、「土木工事共通仕様書」(標準図集)参照

・備考欄に3回償却の記載がある資材の適用単価は、基礎単価の1/3とする。

(25) 仮管排水栓設置撤去工

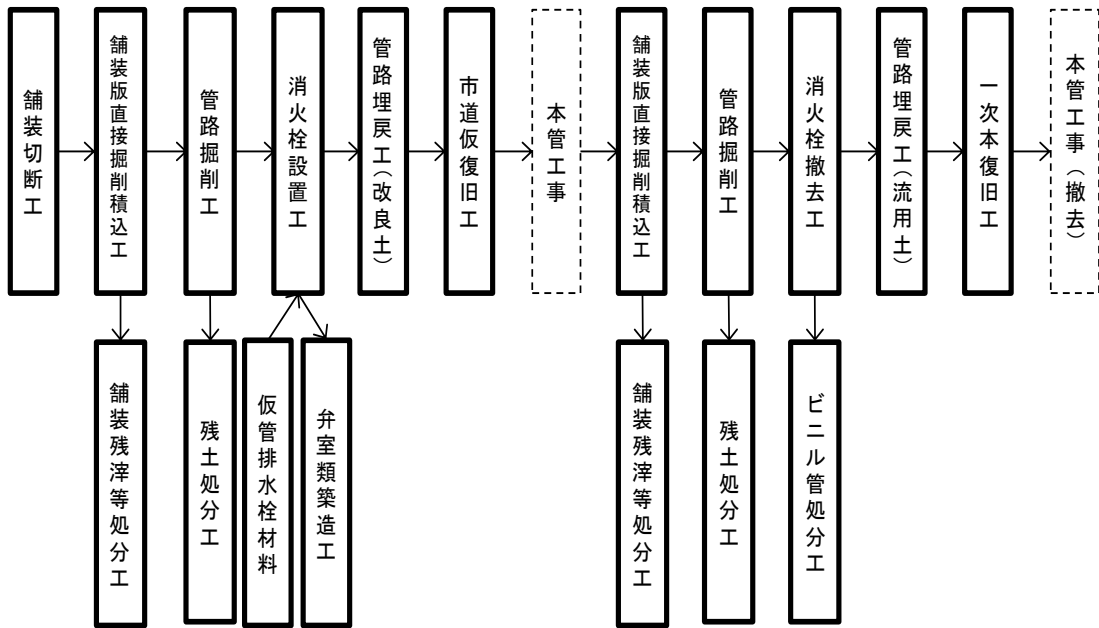
ア. 仮管排水栓設置撤去工は、仮管部に仮排水栓を設置し、本体工事完成後に当該仮排水栓を撤去する工事に適用する。

イ. 仮管排水栓材料のうち、鋳鉄管材料、ボルトナット、消火栓、弁室材料については、3回償却とする。また、当該部分の撤去は、仮設配管の再使用目的撤去を標準とする。

ウ. 仮排水栓の弁室については、レジンコンクリートブロックを標準とする。

エ. 埋戻工は、設置時に改良土を使用し、撤去時に当該改良土を流用するものとする。

オ. 施工フローは、下記を標準とする。



(注)・本包括単価は、実線部分の施工内容に対応している。

・その施工に必要な全ての機械・労務について含んでいる。

カ. 標準数量表

(1箇所当り)

工種名称	形質寸法	単位	数量	
			車道	歩道
舗装切断工	アスファルト	m	2.32	
舗装版直接掘削積込工		m ²	1.28	
管路掘削工		m ³	0.84	0.89
管路埋戻工	改良土	m ³	0.35	0.49
管路埋戻工	発生土	m ³	0.24	0.36
残土処分工		m ³	0.35	0.46
舗装残滓等処分工	アスファルト	m ³	0.08	0.04
舗装残滓等処分工	路盤廃材	m ³	0.26	0.06
市道仮復旧工		m ²	0.64	
弁室類築造工	設置・撤去	箇所	1	
仮管撤去工(铸铁管)	再使用あり	m	※1	
一次本復旧工		m ²	0.64	
K形継手工		箇所	2	
KS形継手工		箇所	1	
消火栓設置工	設置・撤去	箇所	1	
仮ビニル管布設工		m	0.50	
铸铁管据付工		m	※1	
給水管撤去工	ビニル管	m	0.50	
仮管排水栓材料		箇所	1	

※1 φ75 : 0.63、φ100 : 0.66、φ150 : 0.69とする。

(注)・仮ビニル管布設工については、「本章 第1.3(22)カ.給水管布設工(ビニル管)」による。

・給水管撤去工については、「本章 第1.3(22)キ.給水管撤去工(ビニル管)」による。

キ. 標準材料表

(1 箇所当り)

資材名称	単位	数量			備考
		φ 75	φ 100	φ 150	
消火栓 (単口)	個	1			3回償却
T頭ボルトナットフランジ用異形 (仮管用)	本	4			3回償却
G F ガスケット	個	1			
排水栓鉄蓋	個	1			3回償却
調整リング	個	2			3回償却
レジンコンクリート上部壁 (A)	個	1			3回償却
レジンコンクリート下部壁 (C)	個	1			3回償却
レジンコンクリート底版 (P)	個	1			3回償却
V C ソケット	個	1	1	1	
耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管	m	0.50	0.50	0.50	
D K 継輪	個	1	1	1	3回償却
D K 浅層埋設形フランジ付T字管 G F 形	個	1	1	1	3回償却
T頭ボルトナット (K・KF形用) ※1	本	12	12	18	3回償却
K ゴム輪	個	3	3	3	
K (A) 押輪	個	1	1	1	3回償却
K 離脱防止押輪	個	1	1	1	3回償却
D K 栓	個	1	1	1	3回償却

※1 φ 75 : M16×85、φ 100・φ 150 : M20×100とする。

(注)・弁室類築造使用材料については、「土木工事共通仕様書」(標準図集)参照。

・備考欄に3回償却の記載がある資材の適用単価は、基礎単価の1/3とする。

(26) 試験掘工

ア. 試験掘工は「I編 第1章 第2. 2. (6) 準備費」のとおり、事前の地下埋設物調査のための試験掘工事に適用する。

イ. 埋戻工は、改良土使用を標準とする。

ウ. 矢板工の計上が必要となる場合は、アルミ矢板、矢板長 2.0m、支保工 1 段を標準とする。

エ. 標準数量表 (残土指定・自由処分)

(1 箇所当り)

工種名称	単位	幹線道路		一般道路		歩道		未舗装	
		矢板なし	矢板あり	矢板なし	矢板あり	矢板なし	矢板あり	矢板なし	矢板あり
舗装切断工	m	4.70	5.30	4.70	5.30	4.70	5.30	-	-
舗装版破碎 (障害有り)	m ²	1.24	1.48	1.24	1.48	1.24	1.48	-	-
人力掘削工	m ³	1.24	2.07	0.89	2.10	0.95	2.18	0.99	2.22
残土処分工	m ³	0.62	1.33	0.64	1.80	0.83	2.03	0.99	2.22
管路埋戻工	m ³	0.62	1.33	0.64	1.81	0.89	2.10	0.99	2.22
舗装残滓等処分工 (アスファルト)	m ³	0.12	0.15	0.10	0.12	0.04	0.04	-	-
舗装残滓等処分工 (路盤廢材)	m ³	0.62	0.74	0.25	0.30	0.12	0.15	-	-
矢板工 (設置・撤去)	m	-	5.30	-	5.30	-	5.30	-	5.30
一次本復旧工	m ²	1.24	1.48	1.24	1.48	1.24	1.48	-	-